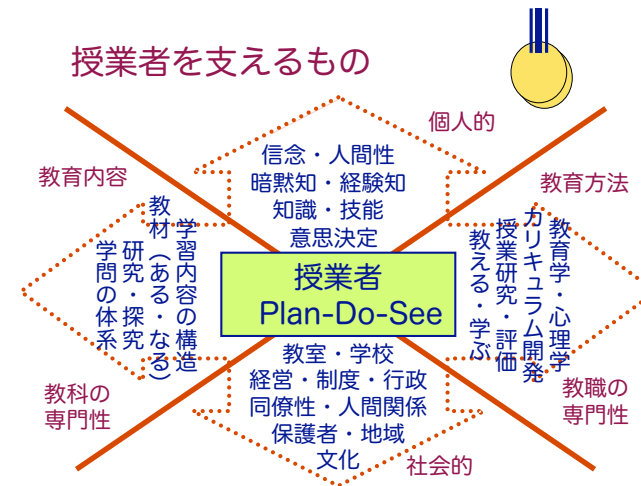


授業の可能性 —関心と関心の共有—

1 学ぶ立場から教える立場へ

- 学ぶ立場からみた授業
 - ・ 肯定的イメージ
 - ・ おもしろい、ワクワクする、たのしい、うれしい、・・・
 - ・ 否定的イメージ
 - ・ つまらない、たいくつ、ねむい、早く終わってくれー、・・・
 - ・ 左右する要因
 - ・ 教師
 - ・ 教材（教科、学習内容）
 - ・ 学び合い
- 教える立場に立ってみると
 - ・ 理想の授業像をどう実現するか？
 - ・ 理想は、授業者の思い込みでは？
- 授業者を支えるもの
 - ・ 授業者の日常：Plan-Do-See

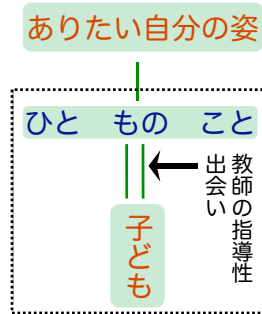


- 授業をつくる第一歩
 - ・ 授業設計の第1段階の1、2、3
 - 1、教えるべき内容をとらえる
 - 2、子どもの実態をとらえる
 - 3、目標を明確にする
- 授業づくりのよりどころ
 - ・ 授業をつくるときに、よりどころにしているものは何？
 - ・ 目標、単元、目的、・・・
 - ・ 教材、リソース、時間、・・・
 - ・ 子どもの実態、とらえる目、・・・
 - ・ デザインする力、カリキュラム開発・・・
 - ・ 授業をする「自分」
- 授業の現場は？
 - ・ 「授業はどこで起こっている？」
 - ・ 学校、教室、
 - ・ いや、究極的にいえば、
 - ・ 授業の現場は、「子どもの中」

- 教える、学ぶの関係
 - ・ 「教える」 = 「学ぶ」 ではない。
 - ・ 学んでなければ教えたことにはならない。
 - ・ 教えなくても学ぶこともある。
 - ↓
 - ・ 子どもの中で、何が学ばれつつあるのか。
このレベルで、「教える」と「学ぶ」をとらえることに意味がある。

2 学習の基盤としての関心

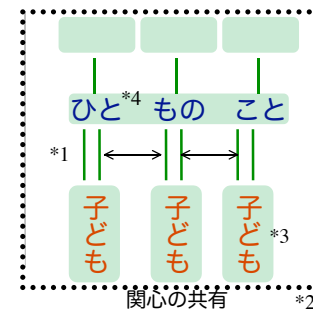
- 関心とは？
 - ・ 『自分にとって、どうでもいい』ではすまされない
- 関心の深まり=追究の意欲
 - ・ 関心の芽生え …… 関心がある、生まれる
 - ・ 関心の意識化 …… 関心が強まる、変わる
 - ・ 持続・拡大 …… 関心を引き出す、育てる
- 子どもの願いを育てる
 - ・ 子どもの願いにもとづく授業
 - ・ 子どもの願い
 - ・ 思いつき
 - ↓
 - ・ 切実性 <対象に正対>
 - ・ 困難な壁を乗り越えてでも
実現したい強い願い
- 外への関心から生き方への関心へ
 - ・ 素朴な願い …… したい
 - ・ 強い願い …… せすにはいられない
 - ・ 成長のために価値ある願い
 - <教師> 追究することに、この子の成長があるはずだ
 - <本人> 自分が高まりたい



- 学習の未来性
 - ・ 現在の経験を未来へ：自己への関心
 - ・ 未来に開かれた学び
 - ・ 過去の経験を近い未来へ：想像

3 関心の共有が生じる場としての授業

- 学習者どうしのかかわり合い
 - ・ コミュニケーション
- 授業のもつ意味 = 関心の共有



- 教師の指導性
 - ・ *1 コーディネート

- ・ *2 デザイン
- ・ *3 関心の共有者
- ・ *4 関心の対象

- 「個性の尊重」による「個性の軽視」
 - ・ 「みんなちがって、みんないい」 って、簡単に言っているの？
 - ・ みんな違ったら困ることはないか？
 - ・ 違って困らないのは、利害の対立、葛藤がないから → 関係の希薄化
 - ・ 以前はおとなの知恵のようなものか
 - ・ ぶつかりあって、傷つけあって、その先に、分かりあって、・・・、
いろいろあって、、、、 → 成長する

4 分化と総合

- 分化とは
 - ・ 近代的なシステムとしての学校の特徴
 - ・ いつ、どこで、なんのために、なにを、どう、・・・
- 総合を取り戻そうとする動き
 - ・ 総合学習、総合的な学習の時間、
 - ・ 個を育てる
 - ・ 教育以外でも
 - ・ ベルトコンベアをなくした工場
 - ・ 総合診療科をもうけた病院
- 個々の活動に関わりを持たせる
 - ・ 生徒指導の基盤としての教科指導
 - ・ 教科指導の基盤としての生徒指導
 - ・ 「総合」と教科
 - ※ 分化した「総合」という見方もできる
 - ・ 分化したものを、別の軸で再統合
 - ・ 情報、環境、人権、生き方・キャリア
- 普段の人間の行動や思考は総合的

- ・ そもそも関連がある
 - ・ 認知と情意
 - ・ ころ、からだ
- ・ では、意識しなくて、一つに専心すればよいのか？

- 総合の働きとしての関心
 - ・ 関心の芽生えは、丸ごと対象と関わろうとすること
 - ・ 後に、意識化、言語化、によって、分化
色、形、匂い、・・・
 - ・ "もの"と"もの"、"もの"と"こと"、"ひと"と"ひと"をつなぐ働き
- 作られた場としての授業の限界
 - ・ 自分の生活と結びついた本当の問いとは？
 - ・ どこまでいっても、疑似は疑似
 - ・ 授業の本質は虚構
 - ・ 生きること、ぎりぎりどこまで迫れるか
- 事例
 - ・ ナス作りの大変さ
 - ・ 32度のビニールハウス
 - ・ こんなところで作業しているなんて「すごいなー」
 - ・ なすのためにがんばっていると思いました
- 授業の可能性の追究
 - ・ 子どもの発達の可能性
 - ・ 授業の可能性
- 教育研究における授業分析の使命
 - ・ 授業の意義の教育的発見
 - ・ ここに学ぶことの意味がある
 - ・ ここに授業の人間形成機能がある